

知恵 知ってこ生活の知恵

暮らしのアドバイス No.111

ファイナンシャル 仲西 康至 (音江町在住)



高齢化社会を迎えて、「終活」という言葉を、良く耳にするのではないのでしょうか。そして、最近では「デジタル終活」が話題です。亡くなった人のスマートフォンや、パソコンに残されたデータが原因となり、遺族が金銭的なトラブルに巻き込まれることが増えているからです。この「デジタル終活」は、お年寄りだけの問題ではなく、若い世代こそトラブルになります。

若い世代であっても、不慮の事故で突然に亡くなることだってあります。その一方、若い世代の方が、残されるデジタルのデータは多くなるからです。

例えば、ネットで漫画を定期購読していたとすると、契約は自動更新されるのが一般的です。本人の死亡により解約が遅れたとしても、

「デジタル終活」は若い世代にこそ必要



未払分は支払う義務が生じます。また、若い世代はネットショッピングをよく利用します。ネットから定期購入をしているものがあると、数ヶ月後に未払分の請求書が遺族に届けられます。さらに、ネット銀行や仮想通貨などを利用した金融資産がある場合は、家族に知られることもなく、埋もれてしまうことも考えられます。

たとえ、ネットを利用したデジタル・データの存在を遺族が知っていたとしても、アカウント、ID、パスワードを知らないと、アクセスができません。

一般に、「終活」は葬式の希望や、遺産分与について、ノートへの記録を推奨しています。同様に、「デジタル終活」では、アカウント、ID、パスワードなどをノートに残すのが理想となります。しかし、パスワードなどをノートに記載しておくことは、とても不安になります。

例えば、キーワードを書き記すことで、一部の遺族にだけ気づいてもらえるようなパスワードが設定できれば理想でしょう。また、パスワードは定期的に更新が推奨されているため、常に最新のパスワードを記録することは簡単ではありません。

それでも、遺族に迷惑をかけないためには、「デジタル終活」に取り組むことも大切といえるでしょう。